

釧路・根室地域の現状と目指すべき将来像

地域の現状

人口減少の進展

釧路・根室地域は、2030年には2000年に比べ人口が約24%減少し域内総生産が約13%減少するなど、全国や道内他地域に比べ人口減少が急速に進むと予測され、このままでは経済規模の縮小に伴い、地域活力が失われていくことが懸念されている。

地域の人口分布をみると、釧路市・釧路町、根室市、中標津町などに集中しているが、全体的には分散的に集落が点在する傾向にある。

また、高齢化率も2030年の時点で37.9%と全道を上回ると予測されており、人口減少と相まって各産業の「担い手」不足も懸念される一方で、酪農では全国や全道他地域と比べ既に大規模化が進んでいる。

質の高い食

地域の農業、特に酪農では、1戸当たりの経営耕地面積が大きく、大規模化が進んでおり、生乳生産量は全国の15.8%（2003年）を占めている。

また、水産業でも生産高が全国の5.1%（2002年）を占めており、道外市場のほか、近年では物流ルート整備によりスケソウダラやタコなどの東アジアなどへの輸出も活発化してきている。

このように、釧路・根室地域の農業・水産業などは豊かな自然環境を背景に、全国・全道に対する安心・安全で質の高い「食」の供給など重要な役割を担っている。特に、道外市場との結びつきが強い。

一方、「食」の高付加価値化や他産業との連携はまだ十分に行われておらず、地元消費、地元加工といった地域内循環が十分に図られていない状況である。

豊かな自然

釧路・根室地域は、知床世界自然遺産や3つの国立公園（阿寒、知床、釧路湿原）、6つのラムサール条約登録湿地など世界に誇れる自然環境に恵まれている。

地域の入込観光客数は道内他地域と比べ相対的に少ないものの、既にアジア地域を中心とした海外観光客は増加傾向にあり、こうした自然環境は観光産業の振興につながると期待される。

また、釧路湿原では、行政機関、NPO、学識経験者、地域住民などにより「釧路湿原自然再生協議会」が設立され、多様な主体が連携し、地域産業や治水・利水と

自然環境との両立を図りつつ、良好で多様性のある自然の保全などを目指す取り組みが行われている。

一方、沿岸には日本海溝・千島海溝を有することから地震が多発し、それに伴う津波の被害も懸念され、近年では暴風雪被害により交通障害が発生するなど、厳しい自然環境でもある。

地域の課題

人口減がもたらす課題：地域構造の変化と経済活力の停滞

全国や道内他地域に比べて急速に進むと予測されている高齢化や人口減少からすれば、各地域がこれまで通りに機能を維持していくことは極めて難しい。例えば、釧路への高度医療機能の集約が現実問題として進んでいるが、今後の人口減少下においては、高度医療に限らずこうした傾向が強まる可能性が高い。

このため、これらに対応し、地域が持続的に発展できる地域構造の構築が必要である。釧路、根室、中標津といった都市圏とその周辺の農漁村地域、あるいは札幌などとの役割を明確化し、役割分担や広域連携等を効果的、効率的に行い、様々な機能を補完しうる地域構造が求められる。

また、経済面では、地域「需要」の減少に加え、地域産業の「担い手」不足も懸念される。このため、海外を含めた販路開拓や地域内循環の充実といった取り組みのほか、「担い手」不足に対して新たな「担い手」などの他地域からの取り込みや各産業・流通などの効率化が求められる。

地域ポテンシャルの活用とグランドデザインの欠如

生ダコやシャケ、ホタテ、スケソウダラなどは物流アクセス改善により韓国への輸出が活発化しているといった事例もあるが、スピードや頻度、鮮度など市場ニーズに応え切れていない。

このほかの「食」についても、個体数増加が衝突事故の増加や樹木の食害などを招いている反面で新たな食材として期待されているエゾシカ肉や、他の地域であまり水揚げされていない鯨肉など、釧路・根室地域には他の地域にない特色もあるがまだ十分に活かされている状況にない。

釧路・根室地域を他地域と比較した場合、農業や水産業などの質の高い素材生産に強みを有し、海外などの販路拡大も期待されるが、加工などの高付加価値化や流通機能の高質化にはまだ余地がある。

また、知床世界自然遺産に代表される自然環境にも恵まれているが、地域住民や関係者自体が地域の「良さ」を理解していないこともあり、地域ブランドや観光などの側面において十分に活用されている状況ではない。

このように、現状では地域の持つ強み・弱みを地域住民などが十分に把握、理解した上で、戦略的なグランドデザインを描いていないため、地域のポテンシャルを

十分に活かし切れていないことが地域の課題となっている。

地域が持続的に発展するランドデザインを描くためには、活かし切れていない特色のあるポテンシャルを十分に活かしていく必要がある。

具体的には、地域の強みであり、全国的にも重要な役割を担っている農業や水産業などの安心・安全で質の高い「食産業」と、世界に誇れる豊かな自然環境や地域産業など地域の特色を活かした「観光産業」などの振興を図っていく必要がある。

そして、「食産業」「観光産業」の下支えとなり、地域に住みこれらを実現していく地域住民にとって重要な「生活・環境基盤」が充実していることも必要である。

また、これらのポテンシャルを今後とも持続的に利活用しつつ、地域の特色のあるランドデザインを実現するためには、世界に誇れる自然環境への負荷に最大限配慮する必要がある。

目標とする将来像

少子・高齢化、人口減少下においても、地域の活力を維持していくため、恵まれた自然環境や安全・安心で質の高い「食」の生産など、特色あるポテンシャルを活かした魅力ある地域づくりを目指す。

地域のポテンシャルを最大限に発揮するとともに、規模拡大など量だけを目指すのではなく地域のブランド力を向上させるなど付加価値の高い産業構造を構築する。

また、恵まれた自然環境を将来にわたって活用しつつ、維持・保全するため、自然環境と両立する地域社会の構築を目指す。

これら取り組みを実効性のあるものとするため、都市圏と周辺地域の機能分担など選択と集中による地域構造の再構築を行い、自然環境と両立した持続可能な地域・産業を構築し、「環境と共生し、住みたくなるまちづくり」を実現する。

特色あるポテンシャルを活かした魅力ある地域づくり

安全・安心で質の高い食産業の構築

釧路・根室地域は、基幹産業である農業や水産業などに裏付けられた安全・安心で質の高い「食」を、第2次、第3次産業を含めた食産業全体として供給が可能な地域である。安全・安心で質の高い食材の生産から、加工（高付加価値化）や輸出などの販路拡大も含めた特色ある食産業の構築を図る。

このためには、食産業の土台となる第1次産業の持続的な発展が重要であり、第1次産業にとって深刻な問題である「担い手不足」については、他地域などからの新たな担い手者の取り込みのほか、法人化などによる経営の効率化を図り、持続可能な産業構造を目指す。

地域の恵まれた自然環境を享受した安全・安心で質の高い「食」の生産は地域のみならず全国・全道の消費者にとっても重要であり、自然環境と調和した産業振興を図るため資源循環型の産業の確立を目指す。

また、最終的には高付加価値化につなげる「地域ブランド」を育成するため、第1次産業による安全・安心で質の高い食（素材）の生産に加え、今後は加工、販売と連携した食産業の構築を目指す。

スケソウダラなど輸出が期待される製品も多いが、まだ輸出の増加にまでつながっておらず、海外、特に東アジアへの販路拡大の取り組みを促進する。こうした取り組みを支援するため、物流の効率化など道外・海外を視野に入れた物流、輸送システムを構築する。

一方、安全・安心で質の高い「食」の提供など食産業と観光産業との連携を強め、

域内での消費・生産活動の増加などにより域内循環をさらに活発化させ、域内循環型経済の構築を図る。

具体的な方向

- ・担い手不足に対応した農業・水産業の効率的な産業構造の構築
- ・豊かな自然環境を享受した安全・安心な「食」の生産
- ・自然環境と調和した持続可能な産業構造の構築
- ・地域のポテンシャルを活かした食の高付加価値化・ブランド化の推進
- ・輸出を含めた販路開拓拡大を支える物流機能の充実

論 点

- ・人口減少下においても持続可能な農業、水産業を実現させるため、経営の効率化と環境保全をどのように調和させるのか。
- ・地域の特色を生かした食産業の振興を持続的に行うために、何に「選択と集中」すべきか。(環境保全、H A C C P・流通などのシステム、各種P Rなど)
- ・地域のポテンシャルをどうやって高付加価値化、ブランド化に結びつけるのか。
- ・可能性がある新たな販路と、その確保に必要な条件は何か。(物流基盤等)

自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興

釧路・根室地域は、3つの国立公園や知床世界自然遺産を擁しているなど豊かな自然環境に恵まれ、雄大な酪農景観や安全・安心で質の高い農産物、水産物が生産されている。また、これらの資源によって海外観光客などが増加している。

こうした自然環境や景観、地域の産業・生産物を観光産業に活かす余地は大きく、観光産業は有望な産業である。観光産業の振興によって、交流人口が増加すれば、地域の経済的基盤の底上げや、雇用の受け皿、人口減少による影響をある程度カバーすることなども期待される。

観光客の収容能力と国立公園など既に観光スポットとなっている場所の分布や、増加している海外観光客や個人観光客などの観光ニーズ・旅行形態の多様化を踏まえ、それぞれの地域が集団観光と個人観光のどちらに重点的に取り組むかを選択し、釧路・根室地域の中で役割分担と連携により、観光産業の振興を図る。

特に、地域の特色であり、資源でもある自然環境や景観、安全・安心で質の高い地元食材などを活かし、「ここでしか味わえないもの」などの発掘や高付加価値化により地域内循環を活性化させる。

また、個人観光客に「ここでしか体験できない」自然環境や産業活動などの体験の提供と、海外観光客に対する地元人材も活かした通訳など各種観光サービスの提供などによる地域の「もてなし」・総合力により交流人口の増加を図る。

恵まれた自然環境を観光資源として活用していく上で、その利用と環境負荷がトレードオフのような関係にあることなど環境保全に最大限配慮し、自然環境と観光

産業の共生を図る。

加えて、北海道、釧路・根室地域の広域性に対応した観光産業の振興のため交通アクセスの定時性・高速性の確保を図るとともに、エコツアーなどの個人観光を振興するため多様な情報媒体を通じた観光情報の提供を推進する。

具体的な方向

- ・ 自然環境との調和や産業活動との連携した観光メニューの提供
- ・ 安全・安心な食をはじめとした他産業との連携
- ・ 国際化や個人観光に対応したサービス・情報の提供
- ・ 広域的連携による観光産業の振興

論 点

- ・ 観光産業の振興を図るために必要な基盤・アイテムの中で、何に「選択と集中」すべきか。
- ・ 多様化するニーズ、観光形態に対応するために、地域内での役割分担はどのような方向で対応すべきか。
- ・ これからの観光、地域情報の発信はどうあるべきか。

地域の役割の見直し

住みたくなる地域・生活環境の充実

人口減少下においては、地域の全ての生活圏や各種機能を維持、拡大していくことは極めて困難であり、非効率である。

こうした視点に立った上で、持続可能な社会・地域の基礎・基盤となる人的資源と、医療・福祉など各種の専門的なサービスを提供しうる人材・機能を維持、確保するため、食産業や観光産業の振興などにより雇用の場を確保するとともに、豊かな自然環境を享受でき安心して暮らせる住環境と必要な利便性を確保する。

このため、生活基盤の最低条件として、地震・津波、豪雨・豪雪などに対する防災、減災機能の向上ほか、地域医療や福祉、教育などのサービスを維持するための交通アクセス機能の定時性、高速性を確保する。

また、豊かな水産資源に恵まれた北方領土との交流拠点地でもある根室市における交流人口の増加など国際交流の増加を図るため、地域住民のホスピタリティ精神に対する意識の向上を図る。

具体的な方向

- ・医療や福祉、文化活動、ショッピングなど利便性を確保するためのアクセス機能の向上
- ・豊かな自然を享受できる地域づくり
- ・地震・津波や豪雨・豪雪の災害に強い地域づくり
- ・北方領土との交流など国際交流の促進

論 点

- ・どの地域がどのような生活環境・生活基盤を確保すべきか。(選択と集中)
- ・地域毎の役割分担を進めていくために必要となる交通アクセス、ネットワークはどのようなものか。
- ・地域として確保すべき「安全・安心」とは何か。(常時の安全性や医療、あるいは災害対策などをどう位置付けるか)

東アジアなどとの関係の強化

地域の農業は道外市場との結びつきが強く、水産業ではスケソウダラなどは中国や韓国など主に東アジア向けの輸出が活発となっている。このほか、道内では秋サケやホタテガイなどの輸出が増加しており、販売量の増加に加え、国内産地価格の安定といった効果も期待されている。

今後向かえる人口減少下においては、関東圏など道外のマーケットの拡大には自ずと限界があるが、海外、特に東アジア地域との貿易は増加基調にあり、地域の強みでもある安心・安全で質の高い「食」の輸出振興は、今後とも期待が持たれる。

このように、安心・安全で質の高い食産業の振興を図るためには、関東圏などのマーケットでの販売強化や地域内循環の充実に加え、こうした製品の東アジアなど新たな販路開拓が重要となっている。

一方、現状では、十勝・網走地域も含めた地域経済に密接に関係している釧路港からの輸出入は、他の主要港に比べ荷役などの物流機能の面で十分でないとの指摘もある。

このため、道外・海外市場の需要に応えられる物流機能を充実させることにより、他地域との競争力を付け、中国や韓国といった東アジアなどとの関係の強化を図る。

また、物流機能の充実だけでなく、人的交流などのソフト面の充実も図る。

具体的な方向

- ・本州や海外などの需要に応えられる生産・輸送システムの構築
- ・東アジア地域などを対象としたビジネスプランの構築

論 点

- ・道外、海外における販売強化のためには、どのような物流機能の充実が必要か。
- ・東アジア地域に対してどのような産品をどのようにして売り込むべきか。
- ・道外、海外に向けた「釧路・根室地域」の売り込みをどのように行うべきか。

将来像の実現に向けて

将来像を支える仕組みづくり

人口減少下において、釧路・根室地域が目指す将来像を実現するため、釧路などの都市圏と周辺地域や札幌圏など他地域との機能や役割分担を明確にするなど、地域全体としての効率性・利便性の向上を念頭に置き「集中と選択」といった視点から地域構造を見直す。

また、目指す将来像を実現するための基礎・基盤となる情報化の推進や人材育成・確保、自然環境や景観などと共存する社会資本の確保を図る。

さらに、地域内循環などを促進させる先進的な取り組みや、各地域の持つ強みを連携した新たな産業・ビジネスの創造を推進するため、ユビキタスなど情報基盤の充実を目指す。

これら取り組みを実効性のあるものにするため、ハード的施策とソフト的施策を効果的に連携させ、行政、民間企業、地域住民などが協働した取り組みを推進する。

具体的な方向

- ・ 釧路など都市圏と周辺地域や札幌圏など他地域との役割分担と広域連携の推進
- ・ 地域を支える人材の育成
- ・ 情報システムの確保によるユビキタスの実現
- ・ 環境保全や景観などに配慮した社会資本の整備

論 点

- ・ 釧路・根室地域の「地域構造」は今後どうあるべきか。(都市圏と周辺地域などで分担する機能とは何か。)
- ・ 人材育成などソフト面に関して、地域がどのように関わっていくべきか。
- ・ 地域住民や産業、行政がどのように関わっていくべきか。
- ・ 地域毎の役割分担を進めていくために必要となる交通アクセス機能はどのようなものか。